

協働事業提案制度

平成 23 年度実施事業中間評価シート等

事業名

外国人区民と日本人区民の相互理解のための交流事業

認知症介護家族による介護の悩み相談（介護家族によるもの忘れなんでも相談）

高齢者への配食サービスと困りごとの聞き取りおよび助け合いのネットワークづくり

ねりま子育て情報誌 2012 の作成事業

親子ひろば「Love ピース club」

子育てひろばスタッフ等研修事業

防災の普及・啓発につながるパンフレットの発行

防災協定締結自治体との住民同士の連携・交流事業

協働事業中間評価（確認）シート

この評価シートは、実施団体と区事業関係課の協議のうえ1部作成してください。

1 事業名

事業名	外国人区民と日本人区民の相互理解のための交流事業
実施団体名	Next! 練馬国際振興協会
事業関係課名	文化国際課
作成年月日	2011年11月1日

2 事業の確認

実施予定・内容	実施内容・結果
<p>1 外国文化紹介セミナーの開催（1回）</p> <p>(1) 事業内容 韓国人講師を招き、隣国文化を理解・体験してもらう。異文化に触れ、それぞれの文化の違いを認識し、相互理解のきっかけとする。</p> <p>(2) 対象者 日本人 40名</p>	<p>1 外国文化紹介セミナー 「ガラバゴス諸島とエクアドルの魅力」</p> <p>(1) 開催日 6月5日(日)</p> <p>(2) 開催場所 練馬区役所本庁舎 19 会 会議室</p>
<p>2 異文化コミュニケーションのスキルアップ講座の開催（1回）</p> <p>(1) 事業内容 多文化共生の講師を招き、多文化を理解し、外国人とのコミュニケーションの回り方などの講座を開催する。</p> <p>(2) 対象者 日本人 30名</p>	<p>(3) 募集人数と参加者数 参加 30名/募集 40名、参加率 75%</p> <p>(4) アンケート結果 23名分 質問:内容の満足度 5 12名 4 6名 3 5名 2,1 0名 5が Good 1が Bad</p>
<p>3 スポーツ国際交流会（1回）</p> <p>(1) 事業内容 多くの世代がスポーツを通じて交流することで、共感意識を育む。</p> <p>(2) 対象者 日本人 15名 外国人 15名</p>	<p>2 多文化理解セミナー 「多文化社会の中で考える私たちのコミュニケーション」</p> <p>(1) 開催日 10月2日</p> <p>(2) 開催場所 練馬区役所本庁舎 19 会 会議室</p>
<p>4 クリスマス国際交流会（1回）</p> <p>(1) 事業内容 プロマジシャンを招き、誰でも気軽に参加できる交流会を開催する。</p> <p>(2) 対象者 日本人 20名 外国人 8名</p>	<p>(3) 募集人数と参加者数 参加 26名/募集 40名、参加率 65%</p> <p>(4) アンケート結果 23名分 質問:内容の満足度 5 12名 4 11名 3,2,1 0名 5が Good 1が Bad</p>
<p>5 日本の伝統文化紹介セミナー（1回）</p> <p>(1) 事業内容 茶道の先生を招き、茶道を通じて外国人に日本の伝統文化、作法を理解・体験し、日本文化への理解を図る。</p>	

<p>(2) 対象者 日本人 10 名 外国人 10 名</p> <p>成果の確認方法</p> <p>1 各催事の募集人数に対する参加率 2 アンケート結果を測定</p>	
<p>(1) 当初の想定より、良く(上手く)できたことはありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区報掲載による集客効果があった(但し、現時点は日本人向けのセミナーしか行っていない) ・予想以上にアンケートの結果(参加目的に対する満足度)が良かった ・多文化理解セミナーはワークショップ形式を取り入れた事により満足度が高かった。 ・エクアドルの大使館に観光情報やエクアドルのアイテムを提供して頂き、講座内容が充実した <p>(2) 当初の想定どおりにできなかったことはありますか。また、何らかの対応を行いましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災の影響を受け、在住外国人が一時的に減ってしまった (対応) 予定を変更し、日本人向けのセミナーを先に開催 ・外国文化セミナーの区報/チラシ告知で、高度な内容の期待を与えてしまった可能性がある。 「練馬に住んでいる一般外国人に自国文化を紹介してもらおう」という趣旨を伝える必要があった。 (対応) 10.2のセミナーは講師の説明や、セミナー内容、参加者対象を明確にした。 <p>(3) 今後、重点的に取り組むことはありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より多くの外国人に参加してもらうための工夫をする。 ボランティア日本語教室(区内 17 団体・週 1 回開催)に講座のちらしの配布など、案内をしていただけるよう協力の依頼を行い、集客につなげていく。 <ul style="list-style-type: none"> - 集客を考慮した企画にする。(協力団体に企画から一緒に行くなど) - 集客期間を長くする(チラシを早めに配るなど) ・参加者にもっと我々の活動を知って頂くための施策を考える。 次回イベントの案内送付や、継続的なイベントを開催するなど 	

協働事業中間評価（確認）シート

この評価シートは、実施団体と区事業関係課の協議のうえ1部作成してください。

1 事業名

事業名	認知症介護家族による介護の悩み相談(介護家族によるもの忘れなんでも相談)の実施
実施団体名	練馬認知症支援ネットワークの会
事業関係課名	高齢社会対策課
作成年月日	平成 23 年 11 月 18 日

2 事業の確認

実施予定・内容	実施内容・結果
<p>1 もの忘れなんでも相談員の研修会</p> <p>(1) 実施日 平成 23 年 4 月</p> <p>(2) 対象者 相談員 20 名</p> <p>2 介護家族によるもの忘れなんでも相談の実施</p> <p>(1) 実施日 平成 23 年 6 月から平成 24 年 3 月まで 概ね月 4 回程度 午前 10 時～午後 3 時</p> <p>(2) 実施内容 電話相談・面接相談 相談員 2 人を配置 相談にあたっては傾聴を基本とし、相談者の問題を整理し、相談窓口や介護家族の会等を紹介する。</p> <p>3 認知症対策係、高齢者相談センターとの連絡会議の開催 平成 23 年 5 月から月 1 回開催</p> <p>成果の確認方法</p> <p>1 相談支援結果の確認 2 認知症介護家族会とのつながり状況の確認</p>	<p>1 もの忘れなんでも相談員（介護の悩み相談電話相談員）の研修会 研修会実施に先立ち、区内で活動する認知症の介護家族会全て（事業者の主宰するものを除く）に電話相談員研修の呼びかけを行いました。</p> <p>(1) 実施日 平成 23 年 5 月 11 日・18 日 (2) 参加者数 2 回合計で 22 名（全員） 認知症対策係は 18 日参加</p> <p>2 介護家族によるもの忘れなんでも相談（認知症介護家族による介護の悩み相談） 電話相談実施に当たり、相談員研修の資料を基に相談マニュアルを作成しました。</p> <p>(1) 実施日 平成 23 年 6 月～9 月 毎月水曜日（第 5 水曜休み） 午前 10 時～午後 3 時 計 16 回実施</p> <p>(2) 相談内容 電話相談のみ (3) 利用者数 6 月 4 名 7 月 8 名 8 月 5 名 9 月 4 名 計 21 名</p> <p>3 認知症対策係、高齢者相談センターとの連絡会議 平成 23 年 4 月 6 日、13 日、27 日と認知症対策係との打合せを経て、5 月から毎月 1 回、第 1 水曜日（原則として）の電話相談終了後に開催。 5 月 25 日 6 月からの電話相談開始に向けて マニュアルの確認 電話相談員シフトの確認 交通費等会計の確認 認知症対策係より 2 名参加 6 月：休み 7 月 6 日 6 月の相談実績を踏まえて 電話相談員シフト表の作成</p>

	<p>事例検討 会計等事務連絡 認知症対策係1名、高齢者相談センター1名参加</p> <p>(8月3日、9月7日は、認知症対策係、高齢者相談センターの事業の関係で日程調整出来ず、電話相談員だけで、事例検討、事務連絡を行い、認知症対策係とは練馬認知症支援ネットワークの会の連絡担当が随時連絡調整をしました。)</p> <p>8月・9月の認知症対策係との連絡調整の詳細は、別紙<8月・9月の認知症対策係との連絡調整>の通りです。</p> <p>4 取り組み実績 詳細は別紙<相談内容(6月～9月)の報告>の通りです。</p>
<p>(1) 当初の想定より、良く(上手く)できたことはありますか。</p> <p>電話相談員の確保 月4回、各5時間の電話相談に対し10名の相談員が必要ですが、結果として22名の電話相談員希望者が集まり、研修会を2回実施することで、22名全員を電話相談員として確保することが出来ました。</p> <p>電話相談の内容 電話相談を実施していく中で、介護家族の精神的な負担の軽減につながっているのが実感出来ました。個々の相談内容は個人情報関係で詳述出来ませんが、傾聴に努めることで電話を終える頃には相談者の声のトーンが明るくなったり、「話を聴いて貰えて有り難かった」等の感謝の言葉を聞くことが出来ました。</p> <p>(2) 当初の想定どおりにできなかったことはありますか。また、何らかの対応を行いましたか。</p> <p>電話相談件数の伸び悩み 6月の開始以来の相談件数は21件でした。その理由として、次のことが考えられます。</p> <p>1) 介護保険制度開始以来、要介護者本人に対する訪問介護やデイサービス等のサービスは普及しましたが、介護保険は要介護者本人を支援する制度なので、介護保険制度で打ち出された在宅介護を担う介護家族に対する支援は制度の中では充分ではありません。また、家族が認知症にかかってしまったことの悲しみややりきれなさを抱えながら介護する介護家族の精神的負担、要介護者の昼夜逆転で睡眠が取れない等の介護家族の身体的負担、介護のために仕事を辞めざるを得ない等の経済的負担など、家族の介護負担に対して、社会的な理解も十分ではありません。そのため、地域で活動している民生委員やケアマネージャー等の介護関係者の間でも、「認知症介護家族による介護の悩み相談」の必要性への理解や認知度が低いこと。</p> <p>2) 介護の悩みは家族内の関係や個人情報に関するものが多く、チラシを見ただけでは相談者が電話をかけて話すことに勇気がいること。</p> <p>相談件数を増やすための対応 「認知症介護家族による介護の悩み相談」の認知度が低いことが相談件数の伸び悩みの原因の一つと考えられるため、区報掲載、チラシの配布だけでなく、9月13日に石神井高齢者相談センターフロア石神井公園支所、9月30日 大泉高齢者相談センターふきのとう支所で開催されたミニ地域ケア会議に認知症対策係と共に参加し、介護家族支援への理解と電話相談の必要性を訴えました。参加している民生委員、ケアマネージャーなど地域の中で介護家族と接する機会が多い方に、顔の見える関係の中で、悩んでいる介護家族に「認知症介護家族による介護の悩み相談」の利用を勧めて貰うことを訴えました。</p> <p>また、社会福祉協議会の機関紙「ぼけっと」、高齢社会対策課が実施している「シニアナビ」</p>	

等への掲載依頼を行いました。

(3) 今後、重点的に取り組むことはありますか。

「認知症介護家族による介護の悩み相談」の認知度を上げる努力をします。

引き続き、認知症対策係と共にミニ地域ケア会議に参加をする予定です。

・11月17日 大泉高齢者相談センターやすらぎミラージュ支所

・11月29日 大泉高齢者相談センター大泉支所

・11月30日 石神井高齢者相談センター関町支所

チラシのリニューアルを図ります。

チラシの裏面に、「認知症介護家族による介護の悩み相談」の電話相談を利用することにより、「悩みを聞いて貰い、気持ちが軽くなった」、「介護に悩んでいたが、気持ちの整理が出来た」等の相談例を掲載し、併せて、練馬認知症支援ネットワークの会について、練馬区内で約20年から活動してきた家族会や新しく出来た家族会など、練馬区内全ての認知症家族会と認知症介護支援団体の集まりであること等の説明を入れ、介護に悩んでいる家族がためらわずに電話が出来る事業であることをPRしていきます。

高齢社会対策課認知症対策係、高齢者相談センターとの定期的連絡会の開催

介護家族を取り巻く環境について、介護家族支援への社会的理解が得られ、「認知症介護家族による介護の悩み相談」の利用増加に向けて、高齢社会対策課認知症対策係、高齢者相談センターと練馬認知症支援ネットワークの会とが連携して取り組めるよう、連絡会を定期的に開催します。11月以降は毎月第2水曜日の電話相談終了後を予定しています。

電話相談の普及・啓発事業の開催

介護家族を取り巻く現状や支援の必要性について、一般区民、介護職・介護関係者を対象に啓発と「認知症介護家族による介護の悩み相談」の普及を図るための事業を行います。

「第4回認知症フォーラム SOSを発信することは恥ではない

講演『認知症介護で孤立しないために』と報告・交流」

(共催：練馬区、後援：練馬区社会福祉協議会)

12月10日(土)午後2時~4時 練馬区役所地下多目的会議室

事務局体制の強化を図ります。

現在22名の相談員の中に、電話相談員をスーパーヴァイズする研修担当の役割を設け、電話相談終了後の振り返り作業や話し合いを行い、電話相談員が相談に集中出来る体制にします。また、ミニ地域ケア会議に参加する広報担当、介護家族支援の必要性を広く一般社会に訴える普及啓発活動の担当等の役割を設け、電話相談の質と量の向上と記録等の整備などで練馬認知症支援ネットワークの会の事務局体制の強化を図ります。

協働事業中間評価（確認）シート

この評価シートは、実施団体と区事業関係課の協議のうえ1部作成してください。

1 事業名

事業名	高齢者への配食サービスと困りごとの聞き取りおよび助け合いのネットワークづくり
実施団体名	特定非営利活動法人楽膳倶楽部
事業関係課名	光が丘総合福祉事務所・高齢社会対策課
作成年月日	2011.11.11

2 事業の確認

実施予定・内容	実施内容・結果																					
<p>在宅高齢者への配食サービスと困りごとの聞き取り・対応</p> <p>(1) 実施期間 平成 23 年 5 月～平成 24 年 3 月</p> <p>(2) 実施内容 月曜～金曜に昼食を配食サービスと困りごとの聞き取り、対応</p> <p>成果の確認方法</p> <p>1 アンケートの実施（満足度を測定）</p> <p>2 相談カードの対応状況</p>	<p>在宅高齢者への配食サービスと困りごとの聞き取り・対応</p> <p>(1) 実施体制の整備 練馬区社会福祉協議会の情報誌「ぼけっと」にてボランティア募集（5名応募） 調理スタッフ 12名 （内調理師2名・栄養士1名） 配食、困りごとの聞き取り 8名 （内民生委員2名） 8名中4名は、調理後配食</p> <p>(2) 事業の周知 ・高松地区、光が丘地区でのミニ地域ケア会議に出席し、事業説明 ・地域包括支援センター光が丘支所、高松支所、田柄支所へパンフレット持参 ・光が丘団地、特に拠点周辺の光が丘5丁目、旭町1丁目を中心に事業パンフの配布（1000部） ・光が丘団地、特に拠点周辺の光が丘5丁目、旭町1丁目を中心に事業パンフの配布（2000部）</p> <p>(3) 配食サービスの実施結果</p> <table style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">登録者</th> <th style="text-align: center;">配食数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5月</td> <td style="text-align: center;">2人</td> <td style="text-align: center;">24食</td> </tr> <tr> <td>6月</td> <td style="text-align: center;">14人</td> <td style="text-align: center;">224食</td> </tr> <tr> <td>7月</td> <td style="text-align: center;">14人</td> <td style="text-align: center;">198食</td> </tr> <tr> <td>8月</td> <td style="text-align: center;">16人</td> <td style="text-align: center;">244食</td> </tr> <tr> <td>9月</td> <td style="text-align: center;">18人</td> <td style="text-align: center;">257食</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td style="text-align: center;">923人</td> <td style="text-align: center;">923食</td> </tr> </tbody> </table> <p style="margin-left: 20px;">隔月に区が発行している地域福祉情報誌「ねりま」を配食時にお渡ししている</p> <p>(4) 相談カードの状況と対応結果 ゴミだし 10件 配食時に持ち帰り</p>		登録者	配食数	5月	2人	24食	6月	14人	224食	7月	14人	198食	8月	16人	244食	9月	18人	257食	合計	923人	923食
	登録者	配食数																				
5月	2人	24食																				
6月	14人	224食																				
7月	14人	198食																				
8月	16人	244食																				
9月	18人	257食																				
合計	923人	923食																				

	買い物 3件 配食時に持参 郵便の投函 2件 配達の帰路で投函 部屋片付け 1件 外部団体を紹介 倒れたときの不安 1件 近隣のメバ-を紹介、留守電を紹介 日常的に会話をする相手がいない 1件 食のほっとサロンへ誘う (5) アンケート結果 別添のとおり
--	---

- (1) 当初の想定より、良く(上手く)できたことはありますか。
- ・当初より広い範囲に配食サービスを行っているが、ボランティアの方の協力もあり、無事対応ができています。
 - ・社会的に孤立している方、スーパーとお風呂でしか外出してなく、アパートの中の人とも口を聞いたことがないし、友人もなく、家族もいないという方がおり、配食スタッフ全員が是非連れ出したいということで誕生日に倶楽部ハウスにお招きした。とても楽しそうで、ずっとしゃべり続けていらした。足が不自由だったが少しずつ歩けるようになったので「食のほっとサロン」へお誘いし、参加されるようになった。ケアマネージャーさんから本人がとても前向きになられたと喜ばれた。
 - ・家族が別居のため心配なので依頼された方は、少し認知があり時々忘れて外出されることがあるが、そんな時も家族と連絡を取り対応している。調子の良い時は、配食スタッフと20分くらいお話をされている。コミュニケーションをとることで精神的な活性化にもなっている。このような事例のように社会との接点がない方の接点となったり、自立の手助けになったり、見守りの点でも事業者には出来ないサービスの提供をしていると感じている。
 - ・また楽膳のお弁当を食べてから血糖値の数値が下がり目の手術が出来るようになったという感謝の声もいただいている。
- (2) 当初の想定どおりにできなかったことはありますか。また、何らかの対応を行いましたか。
- ・東日本大震災の影響があり、事業関係課との協議が遅れ、事業開始が5月下旬になった。
 - ・事業のパンフレットを作成し配布するなど利用者の確保に努めたが、予想どおりに利用者が集まらなかったため、チラシを作成し配布した。
 - ・当初、光が丘団地の中で需要が多いと考えていたが、周辺地域(土支田・田柄・旭町・むつみ台)からの申し込みが多かった。できる範囲で対応をしているが、その結果、配達員、時間、ガソリン代などが想定以上に発生している。
 - ・配食にかかる時間として1件あたり移動時間も含めて10分程度と考えていたが、配達範囲が広いので、1件あたりの時間が20分程度掛かっている。
 - ・好き嫌いのある人が多く別メニューを作るなど手間がかかるが、その日の利用者の名前と顔を思い浮かべながら出来るだけ喜んでもらえるメニューを考えて作っている。
(例:小骨のあるものはダメ、鯖・鮭・貝類・ごまダメ・御飯柔らかめ、固いもの・繊維のあるものダメ・薄味など)
- (3) 今後、重点的に取り組むことはありますか。
- ・この事業の特徴である困りごとの相談を受けるためには、まず登録者と配達スタッフとの信頼関係を築くことが重要であるため、引き続き、配食時のコミュニケーションを大切にし、信頼関係の構築に努める。配食スタッフの紹介記事を載せたお便りを発行し親しみと信頼を持ってもらえるようにしたいと考えている。
 - ・光が丘団地を中心に利用者の確保を図るため、高齢者相談センター光が丘支所での民生委員やケアマネージャーなどが参加するミニ地域ケア会議での周知を徹底する。
 - ・利用者増に対応して、配食ボランティアも確保していく。

協働事業中間評価（確認）シート

この評価シートは、実施団体と区事業関係課の協議のうえ1部作成してください。

1 事業名

事業名	ねりま子育て情報誌 2012 の作成事業
実施団体名	ねりま子育てネットワーク
事業関係課名	練馬子ども家庭支援センター
作成年月日	平成 23 年 11 月 1 日

2 事業の確認

実施予定・内容	実施内容・結果
<p>ねりま子育て情報誌 2012 の作成</p> <p>(1) 冊子作成実行委員の募集</p> <p>(2) 冊子作成研修</p> <p>(3) 冊子の内容、取材先、ラフレイアウトの作成</p> <p>(4) 取材、原稿作成</p> <p>(5) 初稿出稿</p> <p>(6) 校正</p> <p>(7) 冊子完了・配布</p> <p>成果の確認方法</p> <p>1 ねりま子育て情報誌 2012 の作成</p> <p>2 読者へのアンケート（満足度の測定）</p>	<p>ねりま子育て情報誌 2012 の作成</p> <p>(1) 冊子作成実行委員の募集 募集期間 4月15日から5月10日まで 受付人数 説明会参加者 30名</p> <p>(2) 冊子作成研修 実施日 6月7日・6月14日 講師 山崎慶子 参加者 6月7日 21名 6月14日 18名 冊子作成参加者 25名</p> <p>(3) ミーティング 企画会議・担当決め・取材先決定・ラフレイアウト作成まで、全体会議は6月23日より9月30日まで、10回。 地域別に班を作り、班ごとに取材や、ラフについての会議をする。 練馬班 5回 光が丘班 4回 大泉班 5回 石神井班 5回</p> <p>(4) 取材 9月30日取材先調整会議のあと、取材開始。 練馬子ども家庭支援センター、協働推進担当係へ区立施設および区役所内関係係への紹介依頼。 民間施設への取材開始。 原稿作成中。ラフレイアウト作成中。</p>

(1) 当初の想定より、良く(上手く)できたことはありますか。

資金について

最初の計画では、24 ページ、6,000 部の計画で出発したが、民間の助成金 820,000 円を受けることができ、総額 1,320,000 円の計画とすることができ、48 ページ 24,000 部発行をめざすことができた。

子育て情報誌作成委員を募集したところ、多くの方から問い合わせがあった。練馬と大泉の2か所で説明会を行い、練馬区全体から募集することができた。最終的に委員として活動してくれたのは 25 名。

25 名の意欲的な活動により、冊子作成が計画通りに進んだ。

(2) 当初の想定どおりにできなかったことはありますか。また、何らかの対応を行いましたか。

ラフレイアウト作成・原稿作成に班により差が出てきた。

リーダー会議で、見せ方について議論になり何回もラフレイアウトの修正を行った。

編集長の指示のもとで、書き換え・取材先の追加など行った。

(3) 今後、重点的に取り組むことはありますか。

現在、ラフレイアウトと原稿の最終チェック中で、初稿を入れるまでの最終段階に来ている。

11 月半ばに入稿予定。12 月半ばに初稿ができる予定。

多くの子育てママに情報が届くよう、具体的な配布方法を検討していく。

協働事業中間評価（確認）シート

この評価シートは、実施団体と区事業関係課の協議のうえ1部作成してください。

1 事業名

事業名	親子ひろば「Love ピース club」
実施団体名	特定非営利活動法人保育サービスぼてと
事業関係課名	光が丘保健相談所
作成年月日	平成 23 年 11 月 18 日

2 事業の確認

実施予定・内容	実施内容・結果																					
<p>親子ひろば「Love ピース club」の開室</p> <p>(1) 実施日時 毎月第1・第3火曜日、第4土曜日（ただし、6月と12月は第3土曜日） 午前10時～午後3時 上記のうち月1回 社会福祉士等による相談会を同時開催</p> <p>(2) 実施場所 ありんこぼてと 練馬区向山4-28-15</p> <p>(3) 実施内容 ・親同士の交流、専門員への相談の場を提供する。 ・「ほっとタイム」を設け、親同士の交流およびストレスの軽減を図る。 ・発達の様子に合わせた遊びの場を提供する。 保育士3名配置</p> <p>成果の確認方法</p> <p>1 団体と区が連携を図った利用者の割合 2 利用者の感想（負担軽減度を測定）</p>	<p>親子ひろば「Love ピース club」の開室</p> <p>(1) 実施日 毎月第1・第3火曜日、第4土曜日（ただし、6月は第3土曜日）午前10時～午後3時 上半期実施日 16日</p> <p>(2) 利用状況 月別利用者数（内社会福祉士等による相談者）</p> <table> <tr><td>4月</td><td>12組</td><td>(6人)</td></tr> <tr><td>5月</td><td>7組</td><td>(4人)</td></tr> <tr><td>6月</td><td>33組</td><td>(4人)</td></tr> <tr><td>7月</td><td>27組</td><td>(4人)</td></tr> <tr><td>8月</td><td>15組</td><td>(6人)</td></tr> <tr><td>9月</td><td>24組</td><td>(8人)</td></tr> <tr><td>上半期計</td><td>118組</td><td>(32人)</td></tr> </table> <p>保健相談所から紹介のあった利用者数 2人</p> <p>総利用者数に占める区と連携を図った利用者数の割合</p> <p><u>区の紹介により利用者数 + 区と情報交換した利用者数</u> 総利用者数</p> $= \frac{25}{118} = 21.1\%$ <p>（人数としては多くないのだが、再来室が多い。）</p> <p>(3) 利用者の感想結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いくらお礼を言っても足りないくらい、感謝している ・子どもが登室を楽しみにしている ・リフレッシュができるので感動している ・リラックスでき育児にとっても助かる場所 ・ストレス解消になり、穏やかに子育てできる ・いつでも自分の家のような雰囲気 ・個別相談ができ安心 	4月	12組	(6人)	5月	7組	(4人)	6月	33組	(4人)	7月	27組	(4人)	8月	15組	(6人)	9月	24組	(8人)	上半期計	118組	(32人)
4月	12組	(6人)																				
5月	7組	(4人)																				
6月	33組	(4人)																				
7月	27組	(4人)																				
8月	15組	(6人)																				
9月	24組	(8人)																				
上半期計	118組	(32人)																				

	<ul style="list-style-type: none"> ・ アットホームで落ち着く ・ 情報交換ができとても有意義 ・ 息子は言葉が遅くてお友達と関われなかったのですが、この広場でスタッフの方が根気強く接してくれ、関わり方をじっくり教えてもらうことができました ・ お友達をひっかいてしまったり、攻撃的だった息子。手が出る前にスタッフの方がタイミングよく手を差し伸べてくれ、少しずつがまんできるようになりました。
<p>(1) 当初の想定より、良く（上手く）できたことはありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達からの紹介という形での利用者が増えて、全体的に利用人数が増えた。 ・ 来室時の子どもの様子を本人同意の上、保健相談所に伝えることなどにより、連携した支援を進めることができた。 <p>(2) 当初の想定どおりにできなかったことはありますか。また、何らかの対応を行いましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各保健相談所において事業の周知は進んだが、地域の特性等もあるのか保健相談所の紹介による来室者は思いのほか少なかった。 ・ 保健所にはチラシを欠かさないように配布をした。 <p>(3) 今後、重点的に取り組むことはありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 利用の子ども年齢が広がっている。子供同士はすぐ交流できるが、親同士は子どもの年齢が同じ方同士が交流しているケースが多く見受けられるため、子ども年齢に関係なくつながりや交流も深めていくよう手助けしていきたい。 ・ 複数の地域で当該事業を実施できるよう区内の広い範囲での保育者の養成を心がけたい。 ・ 保健所での経過観察時の保育を見させていただき、自分たちの保育時のレベルアップにつなげていく。(11月と1月に予定) 	

協働事業中間評価（確認）シート

この評価シートは、実施団体と区事業関係課の協議のうえ1部作成してください。

1 事業名

事業名	子育てひろばスタッフ等研修事業
実施団体名	NPO法人あそびっこネットワーク
事業関係課名	練馬子ども家庭支援センター
作成年月日	平成23年11月18日

2 事業の確認

実施予定・内容	実施内容・結果
<p>1 子育てひろば等子育て支援に関わるスタッフへの講座の実施（2回/各20～30名）</p> <p>(1) 講座内容： ア 子どもの発達と感覚統合について（2時間） イ 感覚統合の眼鏡をかけて遊びを見ると～感覚体験と遊びやおもちゃの紹介～（2時間）</p> <p>(2) 対象者： 子育てひろばスタッフ、一時保育スタッフ、保育ママ、ファミリーサポート支援者等</p> <p>2 子育てひろば等子育て支援スタッフ向け出張講座の実施（3回程度/各10～30名）</p> <p>(1) 講座内容： ア 子どもの発達と感覚統合について（2時間） イ 感覚統合の眼鏡をかけて遊びを見ると～感覚体験と遊びやおもちゃの紹介～（2時間） 講座内容・時間・参加人数については、主催者側と協議して決定</p> <p>(2) 対象者： 子育てひろばスタッフ、一時保育スタッフ、保育ママ、ファミリーサポート支援者等</p> <p>3 親向け出張講座の実施 子育て支援に関わる団体の希望に応じて、団体の指定した区内施設に出向き講座を開催する。〔保育サービス付き〕（5回程度/各10～30名）</p> <p>(1) 講座内容： ア 講座）発達途上の子どもを知ろう～子育ての困った！には、理由がある（1.5時間～2時間） イ 個別相談）子育ての困った！への対応方法（約20分/1人 計4時間～4.5時間）</p> <p>(2) 対象者：就学前の子どもを持つ親 講座内容・時間・参加人数については、主催者側と協議して決定</p> <p>成果の確認方法</p> <p>1 アンケートの実施（理解度・満足度を測定）</p>	<p>1 子育てひろば等子育て支援に関わるスタッフへの講座</p> <p>(1) 実施日：10月4日/10月12日 (2) 実施場所：光が丘ぴよぴよ/大泉ぴよぴよ (3) 参加者数：10月4日 30名 10月12日 22名 (4) アンケート結果：別紙参照</p> <p>2 子育てひろば等子育て支援スタッフ向け出張講座の実施 未実施</p> <p>3 親向け出張講座の実施</p> <p>(1) 実施日： 講座）9月29日 個別相談）9月29日/10月5日/10月19日</p> <p>(2) 実施場所：北大泉児童館</p> <p>(3) 参加者数：講座）33名 個別相談）3日間合計18名</p> <p>(4) アンケート結果：別紙参照</p> <p>別紙アンケート結果より抜粋 支援者スタッフ講座 講座全体への評価 とてもよかった93% よかった7% どちらともいえない0% あまりよくない0%</p> <p>親向け講座 講座全体への評価 とてもよかった71% よかった21% どちらともいえない4% あまりよくない0%</p>

(1) 当初の想定より、良く(上手く)できたことはありますか。

- ・講座への受講者のアンケート評価で、よい結果が得られたこと。
- ・当事業とは別に実施している東京都モデル事業「～育てにくい・育ちにくい子への理解を深めるために～子どもの発達への感覚統合的な視点を普及する事業」の検討委員会で療育・子育て支援の専門家の先生方、実践者の方々と検討した結果を、今回の講座のプログラムに反映できたため、より実践的で分かりやすい講座内容になったこと。特に、体験学習での評価が高かった。
- ・出張スタイルの講座は支援現場の事情に合わせて実施できるため、「参加しやすくなる」と声をいただいたこと。
- ・協働事業で主催者側の負担なしで講師派遣がされるので、今年度の予算計上をしていなくても実施ができて助かるとの声をいただいたこと。
- ・親向けの講座は、親自身から子育て支援施設に実施依頼があったことや講座受講者の個別相談希望者数が予想を上回り多かったことから、ニーズの高さを感じた。

(2) 当初の想定どおりにできなかったことはありますか。また、何らかの対応を行いましたか。

- ・当初、全ての講座を本団体主導で実施することを企画していたが、参加者の参加しやすい状況について事業関係課との協議した結果、現場の施設の広さや子育て支援スタッフの勤務体制等を踏まえる必要があることがわかったため、講座の一部を各施設の会場の広さや参加者の時間的な都合に合わせる「出張スタイル」とした。(例えば、支援現場の勤務時間終了後に開催できれば、スタッフ全員の参加が可能になる等。)
- ・児童館での親向け講座の最中、会場とは別の部屋で遊びたい子どもが会場から出てしまい、講座を聞けない保護者の方がいたため、どの部屋に居ても講師の声が聞こえるように、フロア全体に放送が流れる設定に変更した。

(3) 今後、重点的に取り組むことはありますか。

- ・「出張講座」は、より多くの方が参加しやすいように、現場で日々困っていることへの具体的な対応ができるように、現場の遊び環境がより充実するように、依頼先のニーズに合わせた実施計画を個々にコーディネートを行う。

協働事業中間評価（確認）シート

この評価シートは、実施団体と区事業関係課の協議のうえ1部作成してください。

1 事業名

事業名	防災の普及・啓発につながるパンフレットの発行
実施団体名	大泉北泉町会
事業関係課名	防災課
作成年月日	平成 23 年 11 月 18 日

2 事業の確認

実施予定・内容	実施内容・結果
<p>1 防災の普及・啓発につながるパンフレットの作成・配布 団体の防災活動への工夫やノウハウなどを活用しつつ、他の地域での取組事例も交えた汎用的なパンフレットを作成し、配布する。（作成時期 6 月～11 月）</p> <p>2 防災出前講座の開催 団体の地域を中心に近隣地域からも参加者を募り、出前講座を実施する。〔 6 月 募集人数 50 人 〕</p> <p>3 子ども縁日の開催 団体の地域を中心に近隣地域からも参加者を募り、子ども縁日を実施する。 子ども縁日では、消火器体験や AED 体験を実施する。〔 9 月 募集人数 150 人（内町会会員以外 50 人） 〕</p> <p>4 防災訓練の開催 団体の地域を中心に近隣地域からも参加者を募り、防災訓練を実施する。 起震車体験・初期消化訓練・AED 取扱訓練・炊き出し訓練を実施するとともに、他地域からの防災関係者等の視察を受け入れる。 〔平成 24 年 1 月実施 募集人数 200 人（内町会会員以外 60 人） 〕</p> <p>成果の確認方法</p> <p>1 防災の普及啓発につながるパンフレットの発行 2 アンケート調査 3 防災訓練等への参加人数</p>	<p>1 防災の普及・啓発につながるパンフレットの作成・配布 6 月 パンフレットのラフレイアウト作業 7 月 防災課との打ち合わせ （レイアウト決定） 7 月 原稿作成作業 8 月 原稿作成作業 9 月 防災課との打ち合わせ （原稿確認） 原稿修正</p> <p>2 防災出前講座の開催 「防災と備え 帰宅困難その時」 (1) 開催日 6 月 12 日（日） (2) 開催場所 大泉町地域集会所 (3) 募集人数と参加者数 参加 55 名 / 募集 50 名 参加者の内、町会以外からの参加者 15 名</p> <p>3 子ども縁日の開催 (1) 開催日 9 月 11 日（日） (2) 開催場所 北大泉野球場北側 (3) 参加者 186 名 参加者の内、町会以外からの参加者約 50 名</p>

(1) 当初の想定より、良く(上手く)できたことはありますか。

- ・パンフレットの作成について、ノウハウがなかったが、防災課と綿密に打ち合わせをしながら進めることができた。
- ・大泉学園中学校も参加した放水訓練ができ、その様子をパンフレットに掲載できた。

(2) 当初の想定どおりにできなかったことはありますか。また、何らかの対応を行いましたか。

- ・当初4月からパンフレットの作成に入り、7月に発行する予定であったが、東日本大震災の影響で、協定の締結時期が6月となり、発行が11月になった。
- ・また、パンフレットの配布に合わせて、他の地域の防災を担う方に案内し、「こども縁日」「新春防災訓練」の参加、見学を受け入れる予定であったが「こども縁日」には間に合わなかった。
- ・そこで、近隣の町会・自治会にお願いをして、掲示板に「こども縁日」のチラシを貼らせてもらった。その結果、近隣の地域からも多数参加している。

(3) 今後、重点的に取り組むことはありますか。

- ・平成24年1月の防災訓練に向けて、防災課と連携をした周知を行い多くの参加者を募り、防災意識の向上に努める。

協働事業中間評価（確認）シート

この評価シートは、実施団体と区事業関係課の協議のうえ1部作成してください。

1 事業名

事業名	防災協定締結自治体との住民同士の連携・交流事業
実施団体名	光が丘地区住民組織連合協議会
事業関係課名	震災対策担当課
作成年月日	平成 23 年 10 月 25 日

2 事業の確認

実施予定・内容	実施内容・結果
<p>1 前橋市総合防災訓練への参加・意見交換</p> <p>(1) 実施日 平成 23 年 9 月 25 日（日）</p> <p>(2) 実施内容</p> <p>ア 共同防災訓練 グリーンドーム前橋・利根川河川敷駐車場にて、炊き出し訓練 参加者 100 名</p> <p>イ 住民組織の防災活動状況や住民組織同士の支援のあり方や体制の整備に関する意見交換〔その 1〕</p> <p>ウ 前橋市防災拠点の視察</p> <p>2 練馬区震災総合訓練での共同訓練の実施</p> <p>(1) 実施日 平成 24 年 1 月</p> <p>(2) 実施内容</p> <p>ア 共同防災訓練</p> <p>イ 住民組織の防災活動状況や住民組織同士の支援のあり方や体制の整備に関する意見交換〔その 2〕</p> <p>3 平時から情報交換ができる連絡窓口の構築</p> <p>4 連携・交流の成果の公表（ホームページ）</p> <p>成果の確認方法</p> <p>1 住民組織が、被災自治体の住民組織に対して行うことのできる支援のあり方と体制の整備に関する報告を作成</p> <p>2 アの報告をもとに、区民の防災にかかる意識啓発に繋がるホームページを作成し、周知を図る。</p>	<p>1 前橋市総合防災訓練への参加</p> <p>(1) 前橋市との事前打ち合わせ（実地踏査）</p> <p>ア 実施日 平成 23 年 7 月 19 日（火）</p> <p>イ 実施内容 前橋市との住民同士の連携・交流事業を進めるにあたっての打ち合わせ、共同防災訓練会場の下見</p> <p>ウ 参加者 光連協防災対策専門委員 4 名 防災課 2 名</p> <p>(2) 前橋市総合防災訓練への参加・意見交換</p> <p>ア 実施日 平成 23 年 9 月 25 日（日）</p> <p>イ 実施内容</p> <p>(ア) 共同防災訓練 光連協 22 名にて支援隊を編成し、支援物資搬送訓練および炊き出し（カレーライス 80 食）訓練を実施。災害対策本部長（前橋市長）へ活動報告を行った。</p> <p>(イ) 住民組織同士の意見交換（前橋市役所内会議室） 前橋市岩神四丁目自治会側は 27 名が参加し、それぞれの地域特性に応じた災害対策等の意見交換を行った。</p> <p>2 平時から情報交換ができる連絡窓口の構築 光連協会長および前橋市岩神四丁目自治会長間における、個別連絡体制を構築。</p> <p>3 連携・交流の成果の公表（ホームページ） 光連協については、ホームページで活動内容を逐次報告予定。</p>

(1) 当初の想定より、良く(上手く)できたことはありますか。

計画時点では、災害想定に対する取り組みの違いから、意見が噛み合わないことも想定されていた。

しかし、実際の意見交換では、災害想定の違い(前橋市:水害対策・練馬区:震災対策)が認識できたことから、それぞれの意見交換が活発に行われ、顔の見える関係の礎を築くことができた。

(2) 当初の想定どおりにできなかったことはありますか。また、何らかの対応を行いましたか。

計画時点では、前橋市総合防災訓練への参加を光連協 100 名規模で想定していたが、岩神四丁目自治会の参加規模および訓練規模を考慮し、20 名の参加とした。

ほぼ対等な規模で行ったことが、お互い屈託の無い意見が多く出たことから、効果が高まった。

(3) 今後、重点的に取り組むことはありますか。

来年 1 月 15 日に予定する練馬区震災総合訓練では、岩神四丁目自治会が実施する震災活動について、光連協として多くを吸収し活動に反映させたい。